


「防災・震災対策による災害に強い道づくり」の概要

計画の概要	成果目標	計画の成果目標と定量的指標の定義及び算定式				
		定量的指標の定義及び算定式	当初現況値	目標値	実績値	
◎計画の期間 平成23年度～ 27年度	①防災対策	防災対策における要対策箇所の整備率 100%を目指し、災害に強い道路ネットワークを確保する。	防災対策 要対策箇所の整備率の向上 (防災対策 要対策箇所の整備率) = (概成箇所数) / (要対策箇所母数59箇所)	44% (26/59)箇所	88% (52/59箇所)	90% (53/59箇所)
◎計画の目標 社会基盤整備と 市民生活環境の災 害対策を総合的に 取り組むことによ り、災害に強いま ちづくりを実現し ます。	②橋梁の 耐震補強	緊急輸送道路及び跨線橋・跨道橋につ いて、大規模地震時の落橋を防止する ことで道路ネットワーク機能確保を行 う。	緊急輸送道路及び跨線橋・跨道橋にお いてレベル2地震動時に対し、落橋さ せないための整備率の向上 (レベル2地震動に対する耐震化整備率) = (概成箇所数) ※1 / (要対策箇所母数緊急輸送道路25箇所+跨線跨道橋13箇所=38箇所)	0% (0/38)箇所	30% (11/38)箇所	31% (11/35)箇所
	③橋梁修繕	橋梁長寿命化修繕計画に基づき、策 定時(平成23当初)に対策が必要と判 断された48橋について、対策(修繕等) を実施する。	橋梁長寿命化修繕計画に基づく修繕 等の実施 (修繕等完了率) = (対策実施橋梁数) ※2 / (策定時に緊急的な対策が必要と判 断された(E判定)橋梁数48箇所)	0% (0/48)箇所	100% (48/48)箇所	89% (34/38)箇所
	◎総事業費(交付金含む) : 約72億円	④舗装修繕	自動車が安全に通行できる路面の健 全度を向上させる。	幹線道路における要修繕箇所(舗装)の 修繕実施 計画路線における健全な路面性状値 (MCI≧5)の延長 / 計画路線の総延長	— (72%) ※3 (1,085/1,500)km	73% (1,102/1,500)km

※1 実績値の算定においては、点検・照査により対策不要であることが判明した3橋梁について指標の対象外とし、38箇所から35箇所を対象とした。  
 ※2 実績値の算定においては、架替え方針変更とした橋梁や、再点検により優先度が低下した10橋梁について指標の対象外とし、48箇所から38箇所を対象とした。  
 ※3 H23年度の設定はなかったが、その後の調査結果を踏まえ、H25年度の値、72%を当初現況値として設定した。

①防災対策  
(国)402号・五ヶ浜

対策前



対策後



落石防止網

落石の危険がある斜面に落石防止網を設置して、道路の安全を確保した。

④舗装修繕  
(国)460号・河合

修繕前

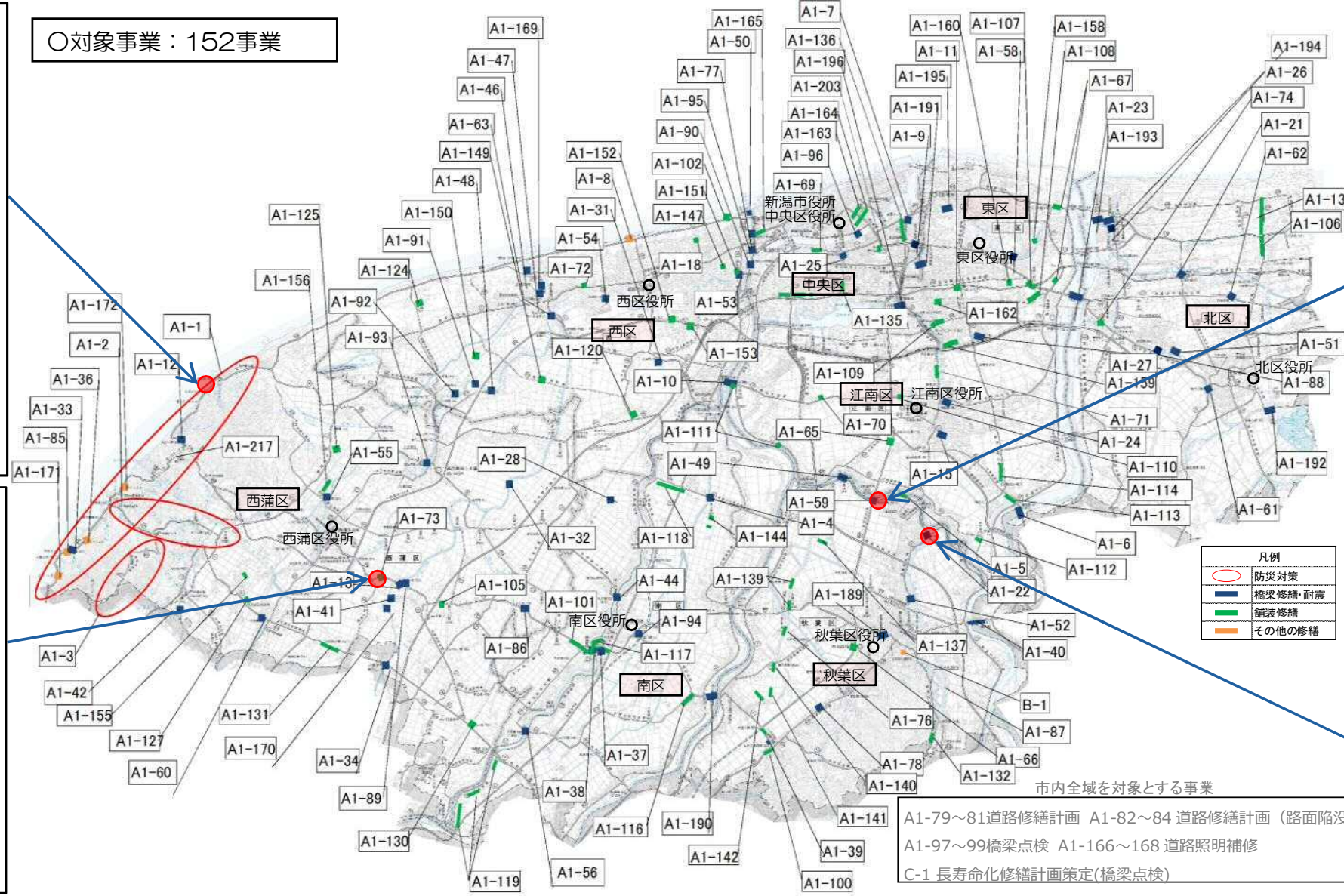


修繕後



舗装打替え

舗装のひびわれが大きい道路を修繕して、道路の安全を確保した。



②橋梁耐震補強  
(国)403号・小阿賀野橋

対策前



対策後




炭素繊維シート補強


橋脚を補強して、耐震性の向上を図った。

③橋梁修繕  
(主)新潟中央環状線・大島橋

修繕前



修繕後



床版取換 塗替塗装

損傷した部材の更新、腐食した部材の塗替塗装を行い、長寿命化を図った。